

札幌社保協 FAXニュース

2014年 12月8日(月)
社保協事務局 発行
TEL823-0867 Fax821-3701
E-mail:s-syaho@kin-ikyo.or.jp
http://www.sapporo-syahokyo.jp/

国保・介護・後期
高齢者110番は
12月25日(木)です

国保料引き下げと 福祉灯油の陳情

国保料引き下げ～負担の公平性からやらない 福祉灯油～経費の割に効果が一部なのでやらない



12/5の市議会厚生委員会で「国民健康保険料の引き下げを求める陳情」と「福祉灯油・あったか応援資金等の実施を求める陳情」の趣旨説明が行われました。国保料引き下げには、富田中部民商事務局長と、西区守る会の山田さんが陳述をしました(裏面)。福祉灯油実施については新婦人道本部の鈴木さんと、道生連道本部の大鷲さんが陳述をしました(裏面)。傍聴には40人が参加しました。この日までに国保料引き下げ署名は12,585人分、福祉灯油に団体陳情は75団体(+14団体が参考分)の提出となりました。委員会審議の結果、両陳情とも「継続審議」となりました。

【国保料引き下げ】各議員の質問等

＜自民党＞国保の都道府県化が進められているので、札幌市が独自の引き下げは適当でない。国保世帯だけでなく、リーマンショック以来市民全体が厳しくなっている。

＜民主党＞国保世帯は厳しい状況と思う、他の政令市との比較を聞き、平均保険料を15万円程度にして上がらないようにしているのは役立っている。1万円下げるにはどのくらい必要か。医療費適正化の努力と、窓口の丁寧な対応を要望。

＜公明党＞法定軽減について聞き、軽減にならない層への軽減対策を質問。

＜市民ネット＞国保は医療保険の中核であるが、高齢者が多く医療費もかかる構造的な問題がある。

＜共産党＞12,500の署名の重みをどう考えるか。収入が増えないのに保険料が上がる仕組みはどうなっているか。負担の公平について市民から意見は上

がっているか。他保険に比べ高い国保料を下げるのが公平ではないか。繰り入れ予算の不要額を引き下げに出来ないのか。

◆市側の回答 国保世帯平均所得、H24年95万円、H25年96万円、H26年99万円。所得が増加したのは社保への加入が増加しており、低所得層が社会保険へ移行したことによる。◆1人あたりの国保料は20市中下から2番目、所得33万円以下の7割軽減総は20市中下から5番目。国保料は医療費に連動して決まるが、予算上の国保料を繰り入れて31,429円下げている。◆2000年に介護保険制度が始まった時から平均保険料を据え置いている。◆国保世帯は約30万世帯なので、1万円の引き下げには30億円かかる。◆中間層の負担軽減のため所得割の負担を減らしたり、限度額の引き上げをした。◆保健福祉局長～署名については市長も言っているが負担感が強いという声だと受け止めている。◆医療費を加入者で分担するため、加入者の所得が平均で下がると、料率をあげるなどせざるを得ない。◆負担の公平について市民から声は出ていない。◆国保の加入者とそうでない他保険加入者の負担等のバランスが問題。◆2008年までは累積赤字解消のため繰り入れを増やしてきたが、これ以上の繰り入れは負担の公平性から入れられない。

★★問題点と特徴★★ 議員や当局が国保料は高いという認識はある。医療費・所得・地域性の違いを考慮しないで、他の政令市と比べても、高い低いの比較にはならない。所得が昨年度より上がっているのも、国保世帯の所得が上がった訳ではない。窓口対応の改善について複数議員から指摘されていた。共産党以外は引き下げを要求しない。市も負担の公平性を繰り返し、根本的に「平均額をあげないが、これ以上上げようとしない」姿勢がはっきりした。

【福祉灯油などの実施】各議員の質問等

＜民主党＞灯油価格の動向を確認、福祉灯油の事務費は臨時給付金の情報を利用できないのか、新たな国の交付金はどうか。

＜公明党＞灯油価格の高騰は冬の生活に影響を与える。本来国がやるべきとの市の考えは理解できる

＜共産党＞市民の暮らしは消費税増税や電気料金値上げなどで厳しい、切実な要求だ。食事を切りつめて暮らしている人もいる、もっと低所得層への支援が必要だ。

◆市側の回答 灯油価格は昨年同月より若干下がってきている。◆臨時福祉給付金とは目的が違うので税情報の利用は改めて確認する必要があり、1.5億円の事務費が必要。◆国の新たな交付金は報道の範囲なので情報収集に努める。◆国への援助等の要請は2007年以降何度か行っている。◆厳しい家計の中で心情的には理解できる。事務費と費用で10億円は大きな経費だが、効果は一部であり政策的な判断として行わない。◆生活困窮世帯には生活保護などを紹介する。◆国に対しては必要に応じて要請したい。

★★問題点と特徴★★ 市民の生活が大変であるというのは一様に言われた。しかし、共産党以外には踏み込んで援助するという強い要求がない。市も費用対効果を持ち出して実施する気がない。

12月5日、市議会厚生委員会で国保料引き下げを求める陳情、福祉灯油の実施を求める陳情が行われましたが、その中から2人の陳情を紹介します。

国保料引き下げの陳情

私は陳述人の山田です。私の生活実態から、いかに国保料が高いのかについて述べたいと思います。

私の家族は4人世帯です。専門高校生の息子と中学3年生の娘がいます。夫婦で美容室を経営していますが営業所得は年々減少しています。2009年の所得は151万円程度になってしまいました。ギリギリの生活で、毎日のやりくりで大変です。

収入が減って生活が大変になってきましたが、国保料が高くて全額支払うことが困難になりました。2009年度の国保料は35万円でしたが、それ以降減免申請をしても、高くて大変でした。

納めなければならないと分かっているにもかかわらず、生活も守らなければ子どもたちが暮らしていくことができません。2009年分は7割程度しか払うことができませんでした。2012年度以降はやっとの思いで払ってきましたが、それでも高い保険料はつらかったです。

2012年10月に、区役所から「3年前の保険料に滞納があるので、早急に納付願いたい。納付がなければ資格証明書になります」と書かれた文書が届き、びっくりしました。精いっぱい努力して払っていたのに、愕然としました。滞納していると督促が激しく、精神的ストレスが増し、とうとう私が病院に通院するようになりました。国民健康保険証が取り上げられるかもしれないという、不安に怯える毎日でした。

商売を営み25年、どんどん高くなる国保料に、カードローンでお金を借り払っている現状です。安心して払うことができる国保料にならないでしょうか。暮らしていけなくなるような国保料にしないでください。ぜひ、国保料を引き下げてほしいと願っています。よろしくお願いします。

福祉灯油実施の陳情

私は年金で生活する大鷲です、75歳一人暮らしです。

私は厚生年金が年額159万5860円、企業年金が19万602円、合わせて178万6462円の年金収入です。支出は家賃が3万6324円（振込手数料を含む）、後期高齢者医療保険料や介護保険料が5300円です。電気・ガスの光熱費が8900円かかります。病院は精神科・内科・整形外科にかかっており、月に医療費が1万5千円かかります。足が悪いのでタクシーでの通院もあります。特に冬になって滑ると危ないので、タクシーを使うことが多くなります。ですから月々の家計はぎりぎりの生活です。



私の住んでいるアパートは古くてとても寒いです。去年の

冬の灯油代は合計で7万8614円、1月で1万3千円になりました。冬の灯油代を確保するのに、夏場からの節約が欠かせません。衣類はほとんど利用している障害者施設のバザーでリサイクル品を買っています。寝るときにストーブを消すと寒くて寝れないのですが、灯油代を節約するのに厚手の毛布を買って凌いでいます。また、昼間部屋にいと灯油代がかかるので、近所の障害者施設に通所して部屋にいないようにしています。また、ストーブのオーバーホールを3年に1回やるために、必要な経費を計画的に残しておくなければなりません。恒常的に所得の低い私のような市民は、こうした節約や工夫をしながら生活しているのです。

札幌市は市議会本会議で、福祉灯油の実施を迫る日本共産党の議員の質問に対して、「効果が低いので実施する考えはない」という回答をされたようですが、余りにも冷たい態度でがっかりしました。所得の多い人にとっては、5千円1万円はそれほど大きな金額ではないでしょうし、何かの支出を押えれば済むので、福祉灯油を利用したりはしないでしょう。しかし、恒常的に所得が低いものにとっては、5千円1万円が家計に占める比重はとても重いのです。逆に言えば、福祉灯油が実施されれば、5千円でも1万円でも効果はものすごく大きいんです。灯油で約50㍓から100㍓、ポリ缶で3缶から6缶入るので、本当に大助かりなのです。

私たち低所得の市民の声をくみ取っていただき、福祉灯油の実施に踏み切り、札幌市が市民に優しい街、生活に困っている市民に手を差し伸べてくれる優しい街になってもらいたい、そのことを強く求めます。よろしくお願いします。